

日本の伝統衣装を現代風アイテムへ
ファッションブランド『クール京都』を展開

平成22年度 採択事業

株式会社 ジュノー
代表取締役 木村次志さん



木村次志さん

伝統技術の日常化を目指して

ジュノーは昭和48(1973)年、縫製工場として創業。2代目の木村次志さんは、同社を縫製加工業のみならず、商社を通して大手アパレルメーカーへ製造納品する企業へと育て上げました。京都の和装業界とも、ポリエステル製ちりめんの洋服を製造したり、呉服企業に自社製品を提供するなど早くから提携。京都の優れた伝統産業の伝承と後身の育成に関心を深めたことは、ごく自然なことであったのかもしれませんが。

今回のファンドは、平成22(2010)年に立ち上げられたブランド、「Cool Kyoto(クール京都)」事業に対して採択されました。ブランド設立の目的は、「京都の伝統技術を使って京都発信のオリジナルな洋服を提案」すること。木村さんは、「和装を含めた伝統品は今、一般の方には非日常のものとなっています。これを少しでも日常のものとするのが大切」と話します。



戦国鎧ジャケットの「青龍」、レディースの「朱雀」。スタンダードモデル

日本古来の衣装が進化を遂げたら？

「クール京都」は、着物の染色技術を使用したデニムで知られる「京都デニム」のデザイナー・桑山豊章さんのオリジナルブランドとして発足。桑山さんがデザインを手がけ、ジュノーが製品の製造、プロモーション活動や販売など主体的に展開しています。「日本の伝統的衣装が急激な西欧化の波にもまれることなく進化していれば」というユニークな視点の商品開発は、当初から話題を集めました。

もともと木村さんと桑山さんは、京都デニムのワンピースの縫製をきっかけに出会ったそう。「伝統産業を単なる芸術品にしたいという彼の思い、これだけのものを作るのにこれだけの技術、手間、コストがかかっているのだからこれだけ支払ってほしいという彼の姿勢、それらは職人とも共感し合うものだと感じました。私のベクトルとも合致し、共にやっっていこうということになりました」。

染め、織り、組紐など、1着に結集する京都の技術には、

伝統製品の活用 コラボの力

木村さんと桑山さんのネットワークと人脈がフルに活かされています。



戦国鎧ジャケット「青龍」の「森林の戦い」バージョン

商品第一号は「戦国鎧ジャケット」

現在は、デニム地の「戦国鎧ジャケット」を、インターネットと「京都デニム」の店舗にて販売。「狩衣や十二単のワンピース、陣羽織のブルゾン風ジャケットなども並行して進めていましたが、ほかは原材料の選びなども少し練る必要があり、その間に鎧ジャケットが完成。2010年、京都駅ビルのファッションショーに出してくれないかという話があって、まずはこれにバリエーションを付けることにしました。こうして、このジャケットが先行して発売されることになったんです」。

戦国鎧ジャケットは、青龍、白虎、玄武、レディースの朱雀の5パターンが基本。通常、ジャケットは約20パーツで出来ていますが、戦国鎧ジャケットは少ないものでも72パーツ、玄武だと何と271パーツにもなるとか。高い技術がなければ対応することはできません。襟元は兜から下がる鍔をイメージ、袖や脇には板札をあしらひ、京組紐を仕込むこともできます。「見た目よりずっと軽くて機能的。家で洗濯もできます。着たいと思ったときにすぐに着られる。これもひとつの伝統の日常化の形だと思いますね」。



ファンドを使い、東京原宿でイベントも開催

知恵を出し合い伝統と革新の融合を

「クール京都」の枠を超えた商品展開も検討中とのこと。たとえば、戦国鎧ジャケット向けに織られた有職文様の西陣織デニムは、洋服にするにはコストが掛かりすぎることから、財布など小物の商品化が計画されています。

木村さんのお話に一貫しているのは、肩肘張らず、自分の分野において出来ることを惜しみなくやるということ。「京都の伝統をこうしたいという思いは確かにあります。ですが、外野がただ声高に叫んでも解決する道は開けません」と話します。

「まずは何といっても市場です。市場があると職人のモチベーションが俄然上がります。技術職を目指したい人も出てくるでしょう。コストの問題などいろいろ課題はあり、一人の発想ではどうしようもないことも、たくさんの人が寄せれば何とかなることもある。たとえばファンドで知り合った人達で知恵を出し合って次のステップへ行けば、それが細い道でも、やがて景色が変わってくるかもしれません。違う業界から一緒にやろうよという声かけがあると、さらにやる気も増すものですし、業界全体を底上げしたい気持ちは誰も同じでしょう」。

木村さんの言葉を伺っていると、ファンドを通じての交流が、京都の伝統産業に新風を吹き込む可能性があることに気づかされます。「そのまま守ること、変化しながらつなげていくこと。伝統と革新は両輪だと思います。みんなの知恵と行動が必要ですよ」。

事業概要

株式会社 ジュノー

http://kjuno.net/

代表：木村次志

業種：婦人服縫製業

創業：昭和48(1973)年 設立：昭和57(1982)年

住所：〒817-0823

長岡京市長岡1丁目3-17

TEL：075-951-4538 FAX：075-951-4538